

2018 年 度 事 業 報 告 書

特定非営利活動法人 地球のステージ

1 事業の成果

●国内事業

「地球のステージ」公演

国際理解教育プログラム「地球のステージ」の年間実績は 131 回となり、前年度より 22 回の減少となった。そのうち約 7 割が学校・PTA 主催であり、教育現場内での需要が多くなっている。神奈川県内での開催が 14 回と最多であり、今後も地元である神奈川での開催に力を入れ、国際理解はもとより、人権・命の大切さなどについて伝えていく活動を行っていきたいと考える。

また、中学校では会場での質疑応答、高校や大学では希望者を募って交流会を行うケースが多かった。先生が多く参加してくださる学校もあり、その時間の意味や充実さを感じることができた。公演内容や活動への疑問だけでなく、進路相談や生活相談になる場合もみられた。

津波 8 年目篇、南スーダン難民篇を新たに制作した。

「語り部講演会の開催」

「地球のステージ」の公演とあわせて、東日本大震災のことを伝える語り部講演会を開催。京都府舞鶴市、奈良県奈良市、静岡県御殿場市のステージに大川ゆかりさんが、島根県出雲市、益田市の公演に丹野祐子さんが出演。それぞれ 30 分ほど、自らの体験や今の思いなどを語ってくださった。地球のステージ公演の震災篇とあわせての語り部なので、とても理解が深まり、意義のある時間になった。

東日本大震災復興支援事業

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた名取市閑上において、遺族会の活動を継続支援しながら、地元で被災された方々が語り部や案内人となり「生の語り」を通して震災やいのちの大切さを伝えることができた。加えて被災地で深刻化している心の問題も大切な課題として取り組むことができた。「語る」ことで心の整理が進められるように、被災された方たちへの「語る」機会や場所の提供を積極的に実施した。

- 新しい語り部として、吉田耕貴さんがデビュー。当時閑上中学校 3 年生、親友を亡くし、その後の想いや今考えていることを話した。今後も石巻の若者語り部などつながり、語り部活動を続けていく。
- 5 月 20 日「閑上の記憶」閑上朝市となりへ移転完了
- 復興庁より感謝状を受賞
- 名取市市政施行 60 周年式典行事にて記念褒賞を受賞
- 移転した閑上中学校遺族会 慰霊碑への案内板設置
- 「閑上の記憶」インスタグラム開設、若者を中心にフォロワーが増えている。(3 月末現在 190 名)
- 3.11 メモリアルネットワーク全体会の会場として「閑上の記憶」を使用、東北全域から参加者が集まり、活動への広報にもなった。
- 第 2 回スタッフ研修実施、2 泊 3 日の行程で広島県と兵庫県へ行った。(広島原爆ドーム、広島平和記念資料館、人と防災未来センター)

・3月11日追悼のつどい

みんなのこと、わすれないよ～景色は変わっても、想いはかわらないよ～開催。
閑上中学校遺族会をサポートし、2018年度も遺族の方々に寄り添いながら3月11日を過ごすことができた。

地域学校協働活動推進事業

家庭・地域・学校が相互に連携し支え合いながら強い絆で協働し、子どもを育てる仕組みづくりを積極的に推進して家庭・地域の教育力の向上を図り、地域全体で子どもを育てる体制の整備を図った。

また、生涯学習に向けた多様な学びの場やレクリエーションの場を公民館等の社会教育施設や集会所等を活用して推進することにより、学びを通じた地域のコミュニティづくりを促進することができた。

東日本大震災篇を含む「地球のステージ」公演、語り部講話を実施した。費用は文科省が負担するので、開催校の費用負担はなし。対象は仙台市を除く宮城県内の学校、団体。公演に関して、2018年度は7回実施。事業開始日及び案内が夏頃だったため、2学期に学期に2公演、3学期に5公演実施。語り部講話は6校で計7回実施。

地球のステージ公演

- ・大崎市立鳴子中学校・山元町立山下中学校・石巻市立山下中学校
- ・登米市立中田中学校・大崎市立松山中学校・利府町立利府中学校
- ・登米市立登米中学校

語り部講話

- ・石巻工業高校（学科ごと、2回実施）・川崎町立富岡小学校
- ・栗原市立宮野小学校・塩釜市立月見ヶ丘小学校・大河原市立大河原小学校
- ・気仙沼市立水梨小学校

●海外事業

東ティモール事業：

東ティモール民主共和国、エルメラ県ハトリア郡10村（パラミン村、ウラホウ村、レギミア村、コリアテ村、アスラウ村、マヌサエ村、ハトリア村、ファトボル村、ハウプウ村、サマラテ村）にて包括的地域保健サービスと家庭医制度を通じた地域保健ボランティア育成向上事業を実施した。

- ・4月 桑山と後藤が事業監査のため渡航し、エルメラ県の保健事業に関わる全ての人（県保健局長、郡保健センター長、医療関係者、PSF、村長、神父、警察官など）による全体会議（ステークホルダー会議）を実施。保健医療システムについて村ごとに問題分析を行い、ステークホルダーと共有した。また同会議内で、昨年作成した緊急体制連絡網を更新した。
- ・5月 PSF 能力強化研修⑥を実施。家族計画、新生児ケア、喫煙について講義と健康教育の演習を行った。
また、各村より選出されたPSF指導者に対し、指導者研修を実施した。
- ・6月 藤屋専門家を派遣し、医療者と保健省職員に対しプライマリヘルスケア及びユニバーサル・ヘルス・カバレッジに基づいた地域保健サービスについて講義と議論を行った。

- ・ 8月 PSF 能力強化研修⑦を実施。水と衛生、子どもの健康について講義と健康教育の演習を行なった。また、これまでの研修内容についての復習時間を設けた。
- ・ 9月 桑山と後藤が渡航。医療者向け勉強会では、村の保健医療サービスを評価する仕組みについて、エルメラ県保健局職員から説明があり、今後実行することになった。
また、PSF 交流会へ専門家として参加し、PSF に対し心理社会的手法を用いたワークショップを通して PSF の動機付けとした。
- ・ 11月 PSF 能力強化研修⑧を実施。HIV/AIDS、血圧測定、目の疾患について講義と健康教育の演習を行なった。また、これまでの研修内容についての復習時間を設けた。
【年間を通して】
- ・ 10村の SISCa(巡回診療)に参加し、PSF への健康教育指導を行った。
- ・ PSF による家庭訪問について指導と助言を行なった。

パレスチナ支援事業：

パレスチナ自治区ガザ地区とヨルダン川西岸地区の 2 地区にて心のケアの取り組みを行った。
ガザ地区では、過去 4 年間の経験を活かして人材育成に重点を置き事業を実施。ヨルダン川西岸地区では、2 つの難民キャンプの子どもたちに対し、心理社会的ケアクラスを開いた。

【西岸地区】

- ・ 6月と 9月に外部向けに心理社会的ケアトレーニングを実施。
- ・ 7月桑山専門家を現地に派遣し、西岸地区にて映画「ふしぎな石〜ラマッラの大地編」を撮影と指導、および心理社会的ケアファシリテーターへの講義を実施。
- ・ 3月に 99 名の子どもたちを対象とした 1 年を通したワークショップを終了。
- ・ 3月に両難民キャンプにて最終発表会を実施。
- ・ 成果発表の場としてシンポジウムを開催し UNRWA 関係者や国際 NGO 等 50 名以上に参加いただいた。

【ガザ地区】

- ・ 7月に子どもたちに対し研修生と共にサマーキャンプを実施。
- ・ 7月桑山専門家を現地に派遣し、事業の監修を実施。
- ・ 6月～8月、12～1月にかけて参加している子どもたちの家族と面会し、基礎情報を纏め情報交換を行った。
- ・ 3月に 100 名の子どもたちを対象とした 1 年を通したワークショップを終了。
- ・ 3月に 3 提携団体の子どもたち合同での最終発表会を開催。
- ・ 3 提携団体のボランティアスタッフ全 18 名を対象にした一年間を通した心理社会的ケア実践者の育成研修を 3月に終了。

ミャンマー里親学資支援事業：

- ・ ミヤッセ・ミャー村の中学校 3 年から高校 2 年の生徒を対象に、月々かかる通学費用と学習資材費を支援。
※ 対象：Grade8 (中学 3 年)、Grade9 (中学 4 年)、Grade10 (高校 1 年)、Grade11 (高校 2 年)
※ 6月に新学期が始まり、新 Grade8 年生を支援してくれる里親を募集し決定した。
※ 2018 年度は、
中学生 Grade8：13 名、Grade9：9 名
高校生 Grade10：13 名、Grade11：7 名 計：42 名を支援した。

- ・ 1月に里親7名を対象に、スタディーツアーを実施した。ミヤッセ・ミヤ村の視察や里子宅を訪問。村の子どもたちと共に活動する時間を多く設けた。
- ・ 村長より、村の給水ポンプをより強力なものにしたいと要望あり、団体が支援した。

UNDP シリアプロジェクト

- ・ 7月6日、対象者の研修生10名とUNDP担当者1名の計11名が日本到着。7月7日～9日の3日間 JICA 横浜にて桑山専門家より心理社会的ケアファシリテーター兼指導者育成のための講義を実施。
- ・ 7月10日～11日に1泊2日で東北スタディーツアーを実施し、閑上の記憶で館長および丹野さんの講話と質疑応答、南三陸ホテル観洋に宿泊、翌日にホテル観洋の語り部バスによる講話、大川小学校にて紫桃さんによる講話と質疑応答を行い、コミュニティでの心理社会的ケアを学ぶ。
- ・ 7月12日には JICA 地球ひろばにて5日間の纏めと、一般参加者を募ってのシンポジウムを開催した。
- ・ 10名の研修生は、大学や大学院で心理学を学び、既に赤新月社にて心のケアをマネージャーという立場やボランティアにて実施している研修生が大半であったこともあり、大変意欲と理解度が高く、また研修生から出る質問やコメントはより現場に即した内容が多かった。研修生たちは限られた日数の中でも多くを学びスキルを身に付け、現場で即実践に移せることが期待でき、とても有効な研修であった。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

- ① 映像と音楽を組み合わせた国際理解教育プログラム「地球のステージ」シリーズの開催に関する事業
- ② 「地球のステージ」に関する情報提供、交流事業等の実施に関する事業
- ⑥ 「地球のステージ」シリーズに関するCD、絵葉書などの有償提供

ア 地球のステージ公演事業

- ・ 事業内容 国際理解講座「地球のステージ」開催
- ・ 日時 通年
- ・ 場所 日本全国の学校体育館・公民館・ホールなど
- ・ 従事者人数 約4名（1公演）2名（マネジメントスタッフ）
- ・ 対象者 学校の生徒とその父兄、一般参加者 約45,000人
- ・ 支出額 32,026,573 円

- ③医療・教育・職業訓練などを通しての国際支援事業
- ⑤途上国支援、自然災害時における救援活動への募金活動

ア 東ティモール支援事業

- ・ 内容 エルメラ県における包括的地域保健サービスと家庭医制度を通じた地域保健ボランティア育成向上事業
- ・ 日時 2018年4月1日～2019年3月31日（継続）
- ・ 場所 東ティモール民主共和国

- ・ 従事者人員 エルメラ県ハトリア郡 10 村（パラミン村、ウラホウ村、レギミア村、コリアテ村、アスラウ村、マヌサエ村、ハトリア村、ファトボル村、ハウプウ村、サマラテ村）
- ・ 対象者 日本人スタッフ 3 名、東ティモールスタッフ 15 名、
直接裨益者：PSF 61 名（うち PSF 指導者 10 名）、
保健センター職員 12 施設 約 20 名
- ・ 支出額 間接裨益者：事業対象地の住民 約 33,000 名
23,864,408 円

イ パレスチナ支援事業

- ・ 内容 ガザ地区・ヨルダン川西岸における危険地帯居住児童に対する心理社会的ケア及び実践者育成事業
- ・ 日時 2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日（継続）
- ・ 場所 西岸地区 ①ジャラゾーン難民キャンプ ②ラマツラ市 ③カランディア難民キャンプ
ガザ地区 ①ラファ市 ②ハインユニス市
- ・ 従事者人員 日本人スタッフ 4 名、現地スタッフ 19 名、
- ・ 対象者 直接裨益者：906 名（ガザ地区、西岸地区のケアクラス対象児童及び研修生）
間接裨益者：14,736 名（ケアクラス対象児童の家族、研修生が本事業外にケアクラスを行う場合の対象児童、イベント参加者の知人等）
- ・ 支出額 46,142,888 円

ウ ミャンマー里親学資支援事業

- ・ 内容 ミャンマー中部ミヤッセ・ミヤー村の中学・高校に通う生徒の就学支援
- ・ 日時 2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日（継続）
- ・ 場所 ミャンマー国 シャン州 ミヤッセ・ミヤー村
- ・ 従事者人員 日本人スタッフ 3 名、現地スタッフ 1 名
- ・ 対象者 Grade8（中学 3 年）、Grade9（中学 4 年）、
Grade10（高校 1 年）、Grade11（高校 2 年） 計 42 名
- ・ 支出額 2,778,529 円

エ UNDP シリア事業

- ・ 内容 シリア国ソーシャルワーカーに対する地域密着型心理社会的ケアの能力開発事業
- ・ 日時 2018 年 7 月 6 日～2018 年 7 月 13 日
- ・ 場所 関東：JICA 横浜、JICA 地球ひろば 東北：閑上の記憶、南三陸ホテル観洋、大川小学校
- ・ 従事者人員 日本人スタッフ 5 名
- ・ 対象者 シリア国内の赤新月社（国際赤十字赤新月社連盟）に所属するソーシャルワーカー 10 名
- ・ 支出額 2,127,738 円

④自然災害時における救援活動に関する事業

ア 東日本大震災復興支援事業

- ・内容 津波復興祈念資料館「閑上の記憶」の運営ならびに被災者支援
- ・日時 2018年4月1日～2019年3月31日（継続）
- ・場所 宮城県名取市閑上、出張語り部は各依頼者の設定地
- ・従事者人員 フルタイムスタッフ1名、パートタイムスタッフ6名
- ・対象者
 - 「閑上の記憶」来館者数 10,425名
 - ・プログラム実施回数および参加人数
 - 案内ガイド 154回 のべ3,452名参加
 - 語り部講話 61回 のべ1,189名参加
 - 語り部の会 21回 のべ269名参加
 - ・出張語り部講演会
 - 実施回数 17回
 - 参加人数 2,525名
- ・支出額 10,293,753円

イ 地域学校協働活動推進事業

- ・内容 「閑上から津波を通していのちを考える会」を学校現場で実施
- ・日時 2018年9月1日～2018年3月31日
- ・場所 宮城県内の小中学校体育館（仙台市を除く）
- ・従事者人員 フルタイムスタッフ1名、講演者1名、語り部 2名
- ・対象者 宮城県内の小・中・高等学校（仙台市を除く）
13校（団体）に震災学習を提供し、合計で3,000人
- ・支出額 3,999,000円